

幼子とともに

2025 年度 7 月号

はじめに

一学期の最後の月を迎えました。幼さの残る入園時ではありましたが、日々、子どもたちは、それぞれの個性を伸ばし、豊かに成長させられたと感じるこの頃であります。幼稚園の働きを覚え、ご理解とご協力を頂き、心より感謝を申し上げます。

6 月後半より、プールでの活動が始まりました。この時期でしか味わえない大切な活動です。特に、「水で遊ぶ楽しさ」だけではなく、使い方によっては、水は危ないものでもある、ということを伝える大切な活動であります。ただ、年々、気温が上がり、異常気象の影響もあり、35 度以上の屋外活動、水温 33 度以上のプール活動、雷・大雨注意報状況下での活動が社会的に制限されている状態であるとのこと。子どもたちの安全を優先しつつ、この暑い状況に、体を慣らししていくことを大事にしつつ、子どもたちが楽しく、過ごしやすい環境を整えて参りたいと思います。ご家庭につきましても、子どもたちの体調管理を大切に行っていただければ幸いです。

子どもを叱る

自由保育をしていますと、必ず、疑問が生じます。「子どもを放任しているのではないか」「悪いことは悪いと厳しく叱るべきではないか」などです。勿論、幼稚園では、子どもに対して叱る場面もあります。しかし、叱る場合にも大事にしなければいけないことがあるのです。

例えば、子どもが明らかに悪いことをした場合、大人は叱ります。それは、子どもを思っていることでありましょう。しかし、強く叱られた場合、子どもは、その苦痛から逃れるために、一旦、言う事を聞く場合があります。怒鳴り声などは、耳が発達していない幼子にとっては、「雑音」にしかありませんから、その雑音から逃れるために、一度、言う事を聞くという動作を行うことがあるのです。

しかし、大人は、子どもが言う事を聞いたと勘違いし、満足感と成功体験をそこで覚えてしまうのです。こうなると、叱ることや怒ることが繰り返し行われ、その対応に依存をしてしまうこともあるのです。するともはや、叱ることが、大人の潜在的な欲求を満たすものになってしまうこともあるのです。それに対して、子どもは苦痛から逃れる方法を学んでしまいますから、何が悪いのか、どうして駄目なのか、ということ自ら学びとることができず、結果的に、同じことを繰り返してしまうわけです。

大事なことは、子どもが「なぜ」を考える余地を与えることではないでしょうか。これは、時間がかかる事でもありますし、忍耐を必要とする場合もあります。しかし、叱るという教育方法が、本当に、子どもの育ちに繋がるためには、その余地を十分に与える必要があるのだと言えます。子どもが考え、得たものは、子どもにとっての財産や糧になるだろうと思います。肩の力を抜いて、ゆっくりと、子どもと向き合う余力をもつ余裕を、どこかで残しておきたいと思うのです。

本物に触れる

先日、私達は、花の日・こどもの日の礼拝を共に捧げることができました。皆様のご協力に、心より感謝を申し上げます。

翌日、ばら組の子どもたちは、市役所・郵便局・消防署へとお花を届けにいきました。特に、消防署では、防火服を着せてもらったり、消防車を間近で見せてもらったりなど、子どもたちにとって、本物に触れる良い機会となりました。このような経験は、ただ、本物に触れるだけではなく、子どもたちと社会の接点を見いだすよい機会にもなります。自分たちの生活が、様々な人々の働きによって成り立っていることを、子どもたちに受け止めていくことができたのではないかと思います。

慰問の最中、卒業生の保護者の方と出会いました。「今年からこんなこともしておられるのですね！」と驚かされていました。コロナ禍にあって、様々な制限がなされた時期を思い返すと、このような行事も当たり前ではないのだなぁと思わされた反面、あの時期を生きた子どもたちに対しては、十分な経験（体験）を提供できなかったなぁと反省もさせられた次第であります。

子どもたちにとっては、毎日が冒険です。毎日、新しいことを体験します。それが子どもたちの生きる力や糧になるのです。幼稚園での生活だけではなく、是非、ご家庭におかれましても、子どもたちに本物を味わってもらえるような環境を備えて頂ければ幸いです。



園長がプールを大事に思うわけ

幼稚園では、6 月後半より、プールでの活動が始まりました。勿論、園長も積極的にプールに入ります。人一倍、夏大好き人間の園長は、誰よりも、プールを楽しみに過ごしています(笑)ただ、超晴男のはずの園長ですが、状況によっては、プールに入れない日があります。先述しましたように、その原因は、気温・水温や曇り指数、雷注意報などがあります。子どもたちの安全を優先した場合、中止を余儀なくされるわけです。

なぜ、私がプールを大事に思っているか。それは、ただ単に、自分が涼みたいから・・・「だけ」ではありません。繰り返すにはなりますが、水遊びには、この時期でしか味わえない面白い・楽しいという経験がある反面、水に対して、気を付けなければいけないことを考えたり、どのように水の危険から自身を守るかなどと考えたりする、大切な目的もあるのです。自然は、神様から与えられた大切な恵みです。ただ、その使い方を誤ると危険にもなりえるのだ、ということ遊びを通じて伝えたいのです。この経験を通して、子どもたちが「正しく怖がる」ということを得ることが大切なのです。

恐らく、それぞれのご家庭においては、この夏休みに、様々な計画を立てておられると思いますが、子どもたちの将来を見据えつつ、沢山の体験をさせてあげると共に、子どもが安心して、自分で考えて生きる力を育む地盤を作れるような日々をお過ごしいただければと願っています。

園 長 須賀 工

栄養士だより 《暑い夏こそ水分補給を！》

汗をかきやすい暑い季節には水分補給は欠かせません。遊びに夢中になるときほど声かけが大事ですね。子どもは大人よりも体内の水分量が多く、汗もかきやすいため脱水症状になりやすいです。正しい水分補給のポイントを確認して暑い夏を乗り越えましょう。

①少しずつこまめに飲みましょう。

一度にたくさんの水分量をとると胃腸に負担がかかります。少量を数回に分けて飲むと、脱水も予防できます。のどが渇いたと感じる前に飲むのが理想です。

②食べ物からの水分補給をしましょう。

食事には汁物やおかずにもたくさんの水分が含まれています。とくに夏野菜は、水分だけでなく、塩分の摂りすぎを抑えてくれるカリウム（特に大人の方）などのミネラルも多く含まれています。食べ物うまく利用して水分補給をしてください。

③飲みものの種類を考えましょう。

糖分の多いジュースなどはうまく体内に吸収されませんし、摂りすぎると肥満や虫歯の原因にもなるので、水分補給は、水かお茶を心がけましょう。

いけだかずみ